

トビウオ通信 (3月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 12 年度島根県漁業の動向》

今月は漁獲管理情報処理システム（TACシステム）により集計した県下主要 13 漁協の漁獲統計資料（属人）から、最近 3 年間の島根県漁業の動向を取りまとめました。漁業種類にもよりますが、島根県の属人統計（農林統計）の約 85% が集計対象となっています。

1 魚種別漁獲量と生産金額

図 1、2 に平成 10 年から 12 年の魚種別の漁獲動向を示しました。漁獲量は平成 10 年の 17 万 9 千トンから平成 12 年の 11 万 6 千トンまで 2 年連続で減少しています。一方、生産金額は 210 億円から 190 億円と漁獲量に比べると小幅な変動にとどまっています。魚種別漁獲量では、カタクチイワシが 3 年間とも 4 万トン前後で安定していますが、生産金額に占める割合は低いようです。マアジは平成 11 年に漁獲量が大幅に減少しましたが、生産金額の方は安定しています。また、漁獲量ではあまり大きな割合を占めないものの、ブリ、ケンサキイカ、ソウハチは生産金額では比較的大きな割合を占めています。

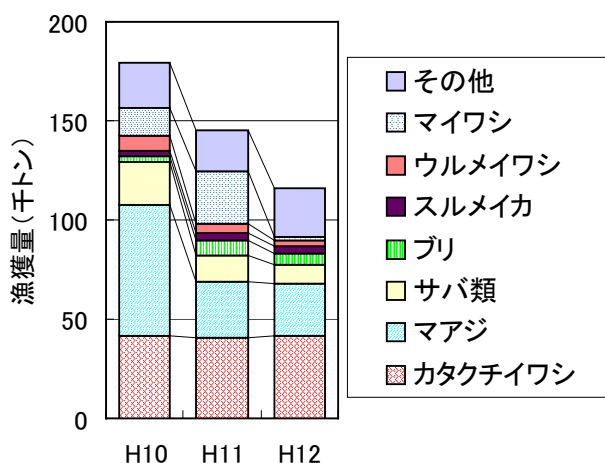


図1 魚種別漁獲量の推移

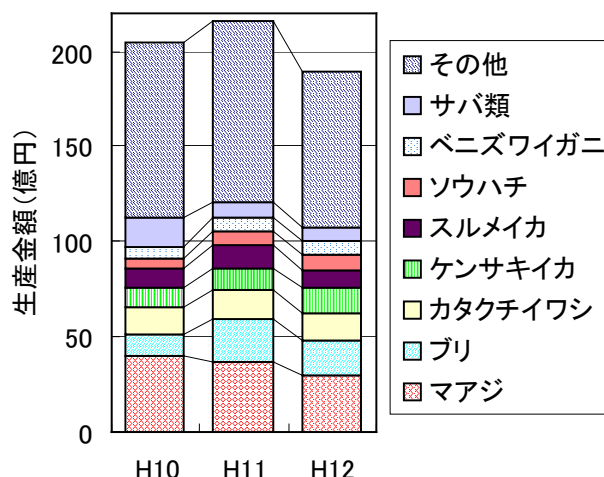


図2 魚種別生産金額の推移

2 沖合底びき網漁業の動向

図 3 に沖合底びき網漁業（2 そうびき）の魚種別漁獲量の動向を示しました。ムシガレイ、ソウハチ、アカガレイといったカレイ類やケンサキイカ、スルメイカなどのイカ類が比較的安定して漁獲されていることなどから、総漁獲量はわずかずつですが上昇傾向にあります。また、平成 12 年はアカムツ（ノドグロ）の漁獲量が急増し、平成 10、11 年の水準の 6~7 倍の水揚げがありました。生産金額の方も 22 億円から 23 億円と比較的安定して推移しています。

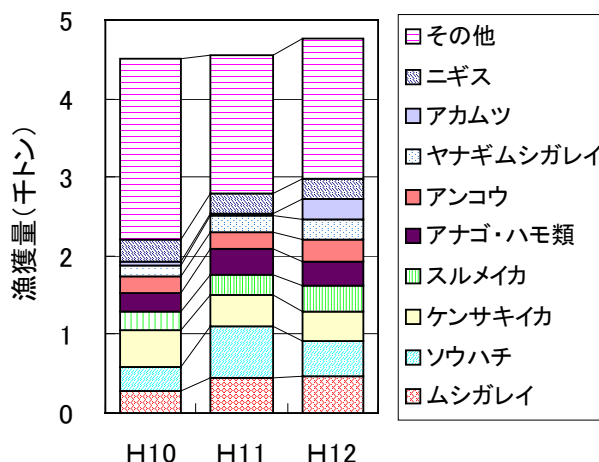


図3 沖合底びき網の魚種別漁獲量

3 小型底びき網漁業の動向

図4に小型底びき網漁業(かけまわし)の魚種別漁獲量の動向を示しました。小型底びき網漁業も沖合底びき網漁業と同様、漁獲量は安定しています。魚種組成は沖合底びき網漁業以上にソウハチの占める割合が高く、平成11年以降は3割を越えています。逆に、かつて割合の高かったニギスは減少傾向にあります。また、沖合底びき網漁業と同じく、平成12年度はアカムツの漁獲量が急増しました。生産金額も22億円から24億円と比較的安定して推移しています。

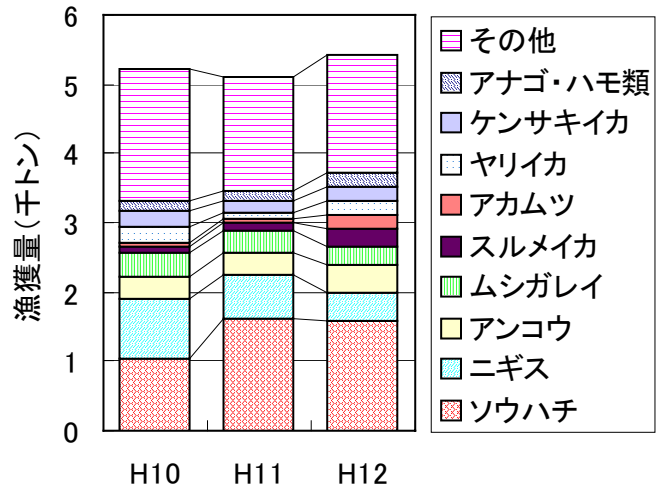


図4 小型底びき網の魚種別漁獲量

4 中型まき網漁業の動向

図5に中型まき網漁業の魚種別漁獲量の動向を示しました。平成10年に14万トンあった総漁獲量は、平成11年、12年と減少を続け平成12年には8万トンを割り込みました。魚種別ではカタクチイワシは安定して漁獲されているものの、マアジは平成11年に、マイワシは平成12年に大幅に減少しています。生産金額は、平成10年が約80億円、11年が87億円、12年が62億円と、平成12年は大きく落ち込んでいます。

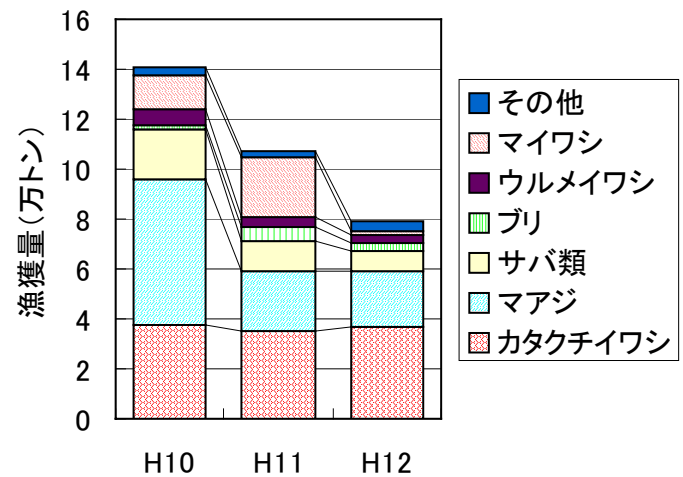


図5 中型まき網の魚種別漁獲量

5 定置網漁業の動向

図6に定置網漁業の魚種別漁獲量の動向を示しました。平成12年の定置網漁業の総漁獲量は平成10年、11年に比較して大幅に増加し、4千トンを超えました。魚種別ではマアジ、プリは3年間通じて大きな割合を占めています。平成12年は、ホソトビウオ(マルアゴ)、アオリイカの漁獲量が急増しています。スルメイカ、サバ類、カワハギ類、サワラ類は平成11年、12年と漸増傾向にあります。生産金額の方は、平成10年の約17億円から、平成11年の約16億円、平成12年の約15億円と毎年減少しています。

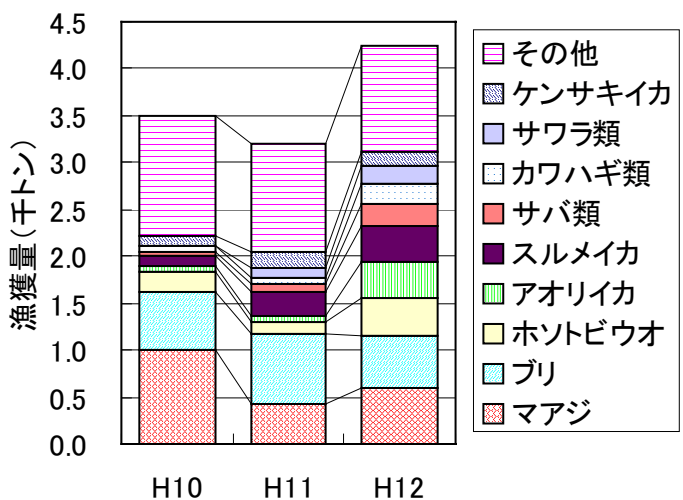
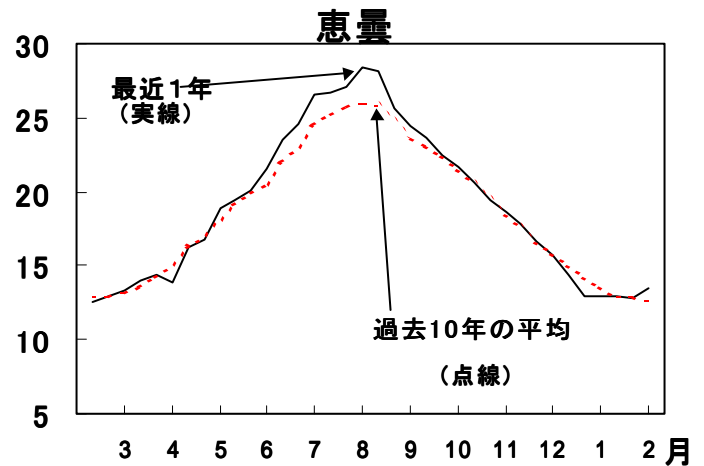
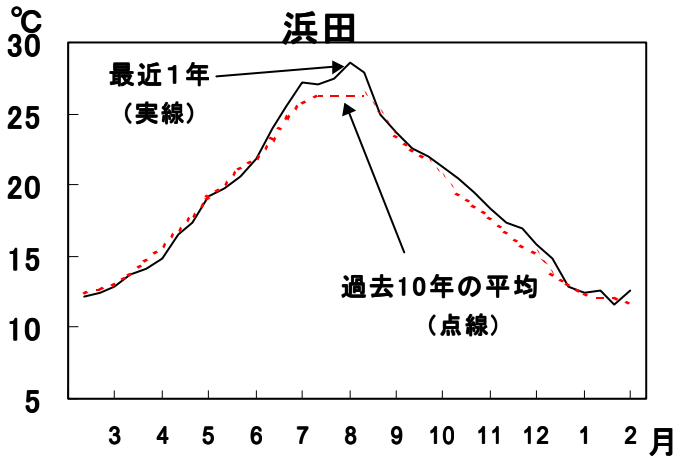


図6 定置網の魚種別漁獲量

《 2月の海況 》

2月	月平均	平年差	評価
浜田	12.3	+0.2	平年並み
恵曇	13.1	+0.2	平年並み

2月の月平均水温は1月に比べ浜田、恵曇とも0.3 下降しました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過となりました。



3月上旬の海洋観測結果によると山陰沿岸域は島根県沿岸部から隠岐諸島にかけて、表層から底層（100m）まで12 以上の暖かな水塊に覆われています。表層から中層（50m）では浜田沖北方120 マイルおよび隠岐諸島の北方120 マイルに冷水域が形成されています。底層では浜田の北方60 マイルと120 マイル、隠岐諸島の北方50 マイルと100 マイルに冷水域があり、複数の冷水域が発達した複雑な水塊配置となっています。

山陰海域の表層から底層まで冷水域周辺で「平年並み～甚だ低め」。そのほかは「平年並み～甚だ高め」でした。

《 2月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に500 トン、総水揚金額は3,565 万円でした。1 統当りの漁獲量は125 トンで、前年の43%、平年の21%と低調でした。水揚金額は891 万円の前年の49%となりました。恵曇では、マアジ主体に総漁獲量26 トン、総水揚金額は176 万円でした。1 統当りの漁獲量は9 トン（前年比：5%）、水揚金額は59 万円（前年比：12%）でした。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量307 トン、総水揚金額は3,845 万円でした。1 統当りの漁獲量は61 トン（前年比：20%）、水揚金額は769 万円（前年比：51%）となりました。各地とも前年豊漁であったカタクチイワシの減少が不振の原因となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船（5 トン以上）の漁獲量は、スルメイカを中心に91 トンで、前年をやや下回りました。一方、西郷のイカ釣船（5 トン以上）の漁獲量は、スルメイカを中心に9.6 トンで、こちらは前年を大きく下回りました。スルメイカ南下群を対象とした漁は終漁したようです。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は360 トン、総水揚げ金額は1 億 5,791 万円、1 統当たり漁獲量は60.0 トン（前年比92%、平年比111%）、水揚げ金額は2,632 万円（前年比103%、平年比112%）でした。漁獲の中心はスルメイカ（前年比316%）とケンサキイカ（前年比277%）でした。

恵曇港の総漁獲量は199トン、総水揚げ金額は1億265万円、1統当たり漁獲量は49.8トン（前年比99%、平年比43%）、水揚げ金額は2,566万円（前年比93%、平年比103%）でした。漁獲の中心はアカガレイ（前年比98%）でした。

【小型底びき網漁業】

和江、大田市漁協とも、出漁日数が前年より増加したため漁獲量は前年を上回りました。一方、水揚げ金額は大田市漁協ではわずかに前年を上回りましたが、和江漁協では9%下回りました。

両漁協ともソウハチ主体ではありますが、1日1隻当たりのソウハチの漁獲量は前年を下回っています。最近の傾向としては、春季にソウハチのまとまった漁（3月～5月）があり、今後の動向が気になるところです。この他、和江漁協ではニギス、アナゴ・ハモ類、大田市漁協ではアナゴ・ハモ類、ヒレグロが前年の3.9～2.1倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

漁獲量は全般に前月ならびに前年同期を量、金額とも下回り低調な漁模様となっています。県東部ではスルメイカ、マアジ、ヤリイカが、県西部ではマルアジ、マアジ、ヤリイカが、隠岐地区ではスルメイカ、ヤリイカが漁獲の主体でした。前年同期には、県東部、隠岐地区ではスルメイカが大量に漁獲されていましたが、今期は漁期がずれ2月には終漁を迎え、県東部では前年同期の17%、隠岐地区ではわずか5%の水揚げしかありませんでした。

【釣・縄】

出漁日数が前月より増加したため、漁獲量は前月よりやや増加したものの、量、金額とも前年同期の6割程度と低調な漁模様が続いています。県東部ではブリが、県西部ではサワラ、ブリ、アマダイが、隠岐地区ではメダイ、ブリ、ヤリイカが漁獲の主体となっています。

漁獲統計

平成13年 2月1日～28日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	42	マアジ	11.9ト	500ト
	恵曇	8	マアジ	3.2ト	26ト
	浦郷	31	マアジ	9.9ト	307ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	120	スルメイカ	758kg	91ト
	西郷	8	スルメイカ	1,205kg	9.6ト
沖合底びき網	浜田	30	スルメイカ・ケンサキイカ	12.0ト	360ト
	恵曇	33	アカガレイ	6.0ト	199ト
小型底びき網	和江	401	ソウハチ・アンコウ	593kg	238ト
	大田市	231	ソウハチ・ニギス	463kg	107ト
定置網	浜田	17	マルアジ・マアジ	372kg	6.3ト
	恵曇	17	スルメイカ・ケンサキイカ・ヤリイカ	99kg	1.7ト
	浦郷	23	スルメイカ・ヤリイカ	295kg	6.8ト
釣・縄	浜田	871	ブリ・ヤリイカ	17.9kg	15.6ト
	五十猛	270	アマダイ・ブリ	13.1kg	3.5ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。